

## 司会の言葉

野村 実\*

近年の心臓手術の成績の向上の第一に、人工心肺の進歩があげられる。今回は advanced CPB workshop というタイトルをかかげ、発表と討論を行った。それぞれの演者からは最新の内容が提示され、人工心肺の安全性も高くなっており、最近汎用されている OPCAB, MIDCAB などの人工心肺を使用しない手術方法が必要なのかどうか考えさせられた。これらの手術法はグラフトか開存率が示されておらず、これからは人工心肺の必要性和その安全性の確保は重要な論点である。私は、畔先生との2人三脚で司会を務めました。討論を通じて、心筋保護の改善、心機能評価としての経食道心エコーの普及、人工心肺装置の改良とともに、心臓外科、麻酔科、循環器内科、臨床工学士の協力体制の重要さが認識させられた。しかし、全体として討論時間が少なかったのが残念でした。

症例による討論では、今回 audio-response sys-

tem を採用した。これは、司会があらかじめ設問を作っておき、それに対して会場のリモコンで選択肢を選ぶ方法で会場と演者が一体となり、双方向の討議が可能であった。今回は、経食道心エコー法のビデオ所見などを提示しながら、人工心肺離脱時の適切な薬物を選択するなどの問題を作製したが、時間の関係でこのシステムの機能が充分発揮できなかったのが残念であった。しかし、会場からの声では単なるシンポジウムより楽しく参加できたという声が強かった。今後このようなシステムは広く採用されると考えられるが、司会のほうも勉強して本システムの有効利用を考慮すべきと思われた。ワークショップのレベルが充分高いにもかかわらず、会場の参加者が少なかったのが気になった。本学会の目的はこのような境界領域における問題点の抽出であると考えられる。今後ともこのような内容は継続して企画されることを望み、司会の言葉としたいと思います。

\*東京女子医科大学医学部麻酔科学教室